



ついに来るべきものが

道は来年度道方針として、道内19の道立保健所支所のうち岩見沢保健所夕張支所など7支所を、本年度いっぱい廃止する方針を固めたそうです。

周辺の人口や中核の保健所からの距離などを基準に再編案をまとめました。今後、関係する市町村や団体に意見を聞いたうえ、9月にも正式に決定するそうです。空知管内では夕張支所・美唄支所・芦別支所・砂川支所の4支所で、奇しくも旧産炭地の保健所支所をゼロにする方針だそうです。

住民に身近な保健サービスは市町村に一元化させ、保健所は難病対策など専門分野に特化させるという地域保健法に基づき、道は2年前に当時45あった保健所を26に再編したうえ、19の保健所を支所として、2年間でさらに見直すとしていたそうです。

道はこの2年間で支所の存続基準に①中心的な保健所から遠隔地にある②所管人口が約1万8千以上を目安とする③人口増加傾向にある地域などを挙げ、12支所を存続、7支所を廃止することにしたということですが、98年の保健所再編の際の「激変緩和措置」で支所として存続した経緯もあるので冷静？に受け止めながら、地域への深刻な影響を懸念する声は高いです。美唄の場合、最盛時10万人近くの人口が現在3万ぎりぎりに減少してしまい、美唄労災病院の縮小問題もささやかれているほかに美唄東高校の閉校も間近い現実を思うとき、淋しさは尽きません。

(雨田 実記)